



榴岡図書館だより

発行
令和6年9月1日
第25号



『動物たちは何をしゃべっているのか？』

通勤時に散歩中の犬を見かけることがある。どの犬もしっぽをふりながら楽しそうに歩いていて、可愛らしいことこの上ない。しかし、この「楽しそう」という所見は彼らに言語で意思の確認ができない以上、人間の憶測にすぎない。動物好きならば一度は彼らと話せたらいいのに、と考えたことがあるのではないだろうか。

この本はゴリラ研究の世界的権威こと京都大学元総長の山極寿一氏と、17年間シジュウカラを研究している東京大学先端科学技術研究センター准教授の鈴木俊貴氏が和気あいあいと動物たちのコミュニケーションについて語り合う一冊である。両名ともフィールドワークに力を入れており、動物の生活環境に足を踏み入れ、自身も研究対象の動物になりきって観察するという研究スタイルをとっている。お二人曰く、(所説あるが)動物は野生環境と比べて飼育下では鳴き声の種類や頻度が少なくなるという事情があり、動物の言語の研究はあまり進んでこなかったらしい。環境が変われば口数も変わるという点で思い当たる節があり、思わず人間も動物の種の一つだと考えてしまう。

本書では、積極的に森へ山へと調査に出かける山極氏と鈴木氏ならではの発見を読むことができる。例えば26年ぶりに山極氏と再会したゴリラが氏を覚えていて、昔のように振舞ったとか、シジュウカラは警戒する天敵によって異なる鳴き声を組み合わせ、仲間にとるべき行動を知らせているとか、興味深いエピソードが盛りだくさんである。私が特にこの本で好きな部分は、決して人間の世界が動物の世界より優れているわけではないと教えてくれるところである。言葉や文字を発達させてきた私たちが失ったものが何なのか。動物たちにとって私たちにないものとは何か。動物たちの世界を知ることで、改めて人間のコミュニケーションのあり方についても考えさせられる一冊となっている。デジタル化が進み、距離も時間も気にせず人と人とが関わりあう時代、二人の研究者の目線を通して、動物の世界、そして私たち人の世界のコミュニケーションについて読み解いてみてはいかがだろうか。

榴岡図書館 照井沙耶加

お・す・す・め



『動物たちは何をしゃべっているのか？』

山極寿一・鈴木俊貴／著
2023.8 集英社
481ヤ



- 『ことばだけでは伝わらない』 西江雅之／著 2017.9 389ニ 幻戯書房
- 『動物翻訳家』 片野ゆか／著 2017.11 480カ 集英社
- 『ヒトの見ている世界蝶の見ている世界』 野島智司／著 2012.2 481ノ 青春出版社
- 『森の声、ゴリラの目』 山極寿一／著 2024.2 469ヤ 小学館

★榴岡図書館上半期イベントのご報告★

毎月第3水曜日

「ブックトレード」

毎月第3水曜日 パルシティ1階ロビーにて
あなたの読み終えた本と
誰かの読み終えた本を交換しましょう♪

ブックトレードの様子



ふれあい広場の様子



5月11日(土)

子育て応援プロジェクト 「赤ちゃん・ママ・パパふれあい広場」

童謡に合わせた赤ちゃんヨガ、
洋服の上からできるベビーマッサージなど
赤ちゃんとの触れ合いを楽しみました♪

8月2日(金)

「夏休み子ども工作教室」

ロケットを作り、
参加者みんなで飛ばしました♪

工作教室の様子



今後の予定 ぜひ、ご参加ください！

◇9月・10月 榴岡地域包括支援センターとの連携講座

◇9月 まちあるき

◇9月～10月(毎週土曜日) 榴岡公園での社会実験 ブックトレード&ワークショップ 等



発行: 仙台市榴岡図書館

指定管理者: 丸善雄松堂株式会社

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8

パルシティ仙台 4F 電話 295-0880



榴岡図書館HP



仙台市図書館HP



仙台市図書館
X(旧 Twitter)